

# 情報発信事業 基本計画

2011年9月

## ● はじめに

プログラミング言語 Ruby が世に出てから 16 年。多くの方々に支えられ、世界各国に利用者が広がりつづけ、今では主要なプログラミング言語のひとつとして大きく成長し、地位も確実なものとなりました。2011 年には、日本工業規格 (JIS) JIS X 3017 も策定され、さらに国際標準化機構 (ISO) において国際規格として正式に審議されることも決定し、国際標準化に向けた動きも進み始めています。

また、ビジネスの場においても Web 系システム開発を中心に国内外で広く利用されるようになり、さらに新たなサポートサービスのビジネス化やインフラの整備・拡張など周辺環境の充実も進み、エンタープライズ領域でのさらなる市場拡大への期待もより一層高まってきています。

その一方で、ビジネスで Ruby の利用が進むにつれ、利用する企業からは、基幹業務システムを中心とした Ruby 導入事例やマーケティング情報、記述方法や手引き書をはじめとした技術情報などの不足と有効な情報入手先が確立されていないことを指摘する声が多く聞かれるようになりました。

このような声を受け、Ruby アソシエーションでは情報発信を Ruby のエンタープライズ領域での市場拡大を支援していく上で重要な事業と捉え、推進していくこととなりました。

Ruby アソシエーションでは、この情報発信事業を通じて良質な情報をより多く収集し、広くかつ継続的に発信していくことを目指し、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう尽力してまいります。

## ● 事業の目的

### 「情報発信活動を通じた Ruby の市場拡大支援」

## ● 事業目標

目的達成に向けて、以下の3つの目標を柱に活動を推進する。

1. Ruby 利用者数の増大及び人材の育成
2. Ruby ビジネス利用数の増大及び規模の拡大
3. 認定システムインテグレータ、Ruby 技術者認定試験合格者の増加及び地位向上

## ● 基本方針

有効かつ継続的な情報発信のために、以下の基本方針のもとに活動する。

- ・ 正確かつ価値の高い情報の収集・発信
- ・ 情報収集、検証体制の確立および仕組み化
- ・ 他の機関、コミュニティとの協力体制の確立
- ・ 本活動を通じた協賛企業への支援

## ● 長期ビジョン

現在の状況を踏まえ、発展、普及のビジョンを以下に示す。



## ● 情報発信：公式サイト

### ● 公式サイトによる情報発信

公式サイトでは、ビジネス支援情報、開発技術者に向けた技術情報の主に2つの情報を軸に構成する。

### ● サイトを構成する2つの軸

#### ● ビジネス支援情報

ユーザー企業や団体、行政機関への具体的な提案に活用できるよう、多くの事例の紹介を中心に情報提供をおこなう。

#### ● 開発者向け技術情報

Ruby 開発で必要とされる、導入から開発・運用に至るまでの情報をワンストップで提供することを目的とし、Ruby 初心者でも一通りの開発ができるように総合的かつ信頼性のある情報を提供する。

### ● 公式サイトの掲載情報

主な掲載情報として、以下を想定する。

#### ● ビジネス支援情報

1. 公的情報・・・財団法人や認定システムインテグレータ情報など
2. 事例・活動紹介・・・採用事例、ビジネスモデルなど
3. セミナー、イベント情報
4. 教育関連情報・・・教育機関での取り組み紹介
5. 協賛企業、認定システムインテグレータ紹介

#### ● 開発者向け技術情報

1. Ruby の紹介、初心者向け情報
2. インストール、開発環境構築
3. 開発（コードレシピ、ライブラリ、テスト方法等）
4. 開発ツール
5. デプロイメント
6. 外部の有用情報（書籍、最新技術動向、技術ノウハウ等）

## ● 情報発信：RubyWorld Conference の開催

技術、ビジネスを含め最新動向の情報収集と直接的な交流を生み、これまでの Ruby 普及、発展において重要な役割を担ってきた RubyWorld Conference の次年度以降の継続的な開催および拡大を目指す。

## ● 技術情報、ビジネスプラン、事例などの集約・発信

次年度以降の開催に向け、以下内容を検討する。

- 国内外の市場からみた動向（基調講演）
- ビジネスプラン（認定システムインテグレータなどによる事例紹介）
- 技術情報
- 自治体向け情報

## ● 情報発信：セミナー活動

今後のニーズを考慮し、多方向のセミナーを企画、実施する。実施にあたっては、開催場所や協賛、後援など様々な可能性を考慮し、認定システムインテグレータや協賛企業、関連団体との連携を検討する。

## ● 今後の検討していくセミナー例

- ユーザー企業向けセミナー
- 営業企画向けセミナー
- 技術者向けセミナー



RubyWorld Conference 2011 の様子

## ● 情報収集活動

当面は、Ruby アソシエーションが自ら主体的に情報収集を行うが、将来を見据え、協賛企業、認定システムインテグレータ、団体、個人など活動に賛同する方々からの情報集約体制の構築を図ることで、継続的かつ充実した情報発信へとつなげる。

## ● 情報収集体制の確立

活動に賛同していただける企業、団体との連携を強化し、より安定した情報体制の確立を目指す。

## ● 情報収集の仕組み化

### ● 技術、ビジネスプランコンテストの実施体制の構築

良質で魅力ある情報をより効率的に収集する手段として、コンテストの実施を目指し、選定方法などの仕組み、体制づくりを推進する。

また、発表の場を RubyWorld Conference に設けることで、来場への誘客やイベントの演出にもつなげる（表彰式、発表の場）。

## ● マスタプラン

2011年9月末現在で予定しているプランを以下に示す。

